

第5章

保幼小連携・接続推進事業の 今後の取組

8年間の保幼小連携・接続推進事業の成果を生かし、令和7年度に「架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック～なだらかにつながる『連携・接続』をめざして～」を作成しました。市内の小学校と就学前施設に配付し、連携・接続を推進するにあたって活用していただければと考えています。

第5章 保幼小連携・接続推進事業の今後の取組

(1) 架け橋期のカリキュラム実践ハンドブックとは

文部科学省においては、「幼保小の架け橋プログラム」の取組を推進しており、このような国の動向も鑑み、教育委員会と保育・幼児教育センターが共に「保幼小連携・接続推進事業(大阪市)」の成果を盛り込んだ「架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック」を作成した。

○作成委員会 3回開催

6月23日

8月25日

10月10日

○作成部会 随時

○作成委員 教育委員会 総合教育センター こども青少年局 保育・幼児教育センター

大阪市小学校教育研究会

大阪市立幼稚園教育研究会

○顧問 大学教授

大阪市私立幼稚園・認定こども園連合会

大阪市私立保育連盟

○監修 大学教授



も く じ	
はじめに	P. 1
もくじ	P. 2
STEP 1 就学前教育・保育と小学校教育の連携は大切！	
就学前教育・保育と小学校教育の連携・接続とは	P. 3
STEP 2 架け橋プログラムってこんなことをめざしている！	
「幼保小の架け橋プログラム」がめざすもの	P. 6
就学前施設のカリキュラム（5歳児カリキュラム）と	
小学校のカリキュラム（スタートカリキュラム）のつながり	P. 7
保幼小連携・接続推進事業(大阪市)第1期から第4期の実践研究報告より	P. 9
保幼小連携・接続推進事業(大阪市)第1期から第4期について	
「連携・接続」で大切にしたいこと	
架け橋プログラム事例	
スタートカリキュラム作成に役立つポイント	
就学前施設での生活や遊びを踏まえて小学校の学習につなぐ時間割	
スタートカリキュラム事例	
STEP 3 スタートカリキュラムをつくってみよう！	
つくってみよう【スタートカリキュラム】	P. 15
スタートカリキュラムのねらい	
スタートカリキュラム実施の主な流れ	
長期的なスタートカリキュラムイメージ例	
スタートカリキュラムの取組始め	
就学前施設 連携・接続における自園所の段階は？	P. 17
小学校 連携・接続における自校の段階は？	P. 18
スタートカリキュラム例	P. 19
指導講評	P. 24
参考様式集	P. 26

(2) 概要

STEP 1 就学前教育・保育と小学校教育の連携は大切！

- ・幼児期に培われた資質・能力が、小学校での生活や学習に深くつながるため、小学校教育への円滑な接続が求められる。
- ・小学校への円滑な接続を図るため、就学前施設と小学校の教職員が双方の独自性を理解し、尊重しながら、「育みたい資質・能力」の重要性を認識し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して子どもたちの育ちを共有し、それぞれの校園所の教育・保育を充実させることが大切である。

STEP 2 架け橋プログラムってこんなことをめざしている！

- ・「架け橋プログラム」は、架け橋期の教育の充実を図るため、小学校や就学前施設の教職員はもとより、保護者や地域住民などの子どもに関わる大人が立場の違いを超えて自分事として連携・協働し、子ども一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す取組である。（文部科学省）
- ・保幼小連携・接続推進事業では、教職員が互いに教育・保育を理解し合うことから始めている。互いのカリキュラムを持ち寄り、照らし合わせ、子どもの育ちについて話し合う機会をもったり、子ども同士の交流会を計画して、打ち合わせや振り返りの時間で子どもの学びをどのように捉えていくかを一緒に考えたりすることが、架け橋プログラムの実施になると考えられる。

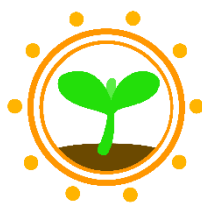
STEP 3 スタートカリキュラムをつくってみよう！

- ・スタートカリキュラムは、小学校に入学した子どもが、就学前施設の遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムと考える。
- ・就学前施設と小学校の生活の違いからくる環境の変化や、集団の規模の違いからくる人とのつながりの変化をうまく乗り越え、教育・保育での子どもの育ちと学びをつなぐために、スタートカリキュラムを作成する。
- ・今あるカリキュラムや週案などを活用することで負担感を減らすことができる。また、就学前施設の教職員と一緒に作成することで、就学前施設で親しんできた歌やふれあい遊びを取り入れたり、子どもたちがやってみたいと思う活動ができる場所や興味をもつ用具や玩具などの教材を準備したりできる。

スタートカリキュラムを実践すると、次のような成果を感じたとの報告があった。

- ・子どもたちの発達段階に応じた柔軟な学習ができる。
- ・興味・関心をもつことができるような活動を通じて、学習への意欲を育むことができる。
- ・遊びを通して新しい環境に適応し、生活が充実することによって、積極的に学習する姿勢を養うことができる。

小学校と就学前施設が、子どもの学びをつなげるために努めておられることが、地域の子どもの安心につながっている。



保幼小連携・接続推進事業 第4期（令和6・7年度）取組まとめ

令和8年7月 発行

編集・発行者 大阪市こども青少年局 大阪市保育・幼児教育センター

〒535-0031 大阪市旭区高殿 6-14-6

TEL 06-6952-0173 FAX 06-6952-0178